

経営比較分析表（令和3年度決算）

山形県 庄内町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	1	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T 適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和4年7月31日 庄内町営風力発電所	令和4年7月31日 庄内町営風力発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
東北電力	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H29	H30	R01	R02	R03
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	2,142	1,793	2,753	2,340	2,365
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	2,142	1,793	2,753	2,340	2,365

	F I T 以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	45,597	45,597

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）

電気事業により生じた利益は、将来の施設修繕に充てるための風力発電基金に積み立てることを基本としている。固定価格買取制度の適用と保険料収入により、想定以上の金額が積み立てられた。卒FIT後は基金の使途について検討していく。

令和3年度剰余金：11,556千円
基金金：風力発電基金（211,040,212円（R4.3.31現在））
方針：維持管理費用、撤去費用の他は、検討中。

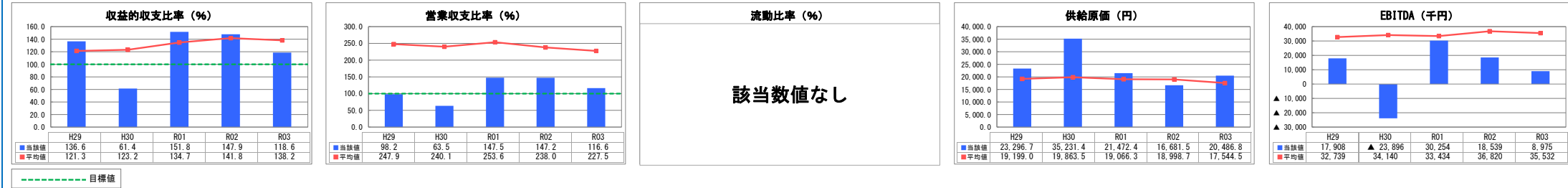
分析欄

1. 経営の状況について

令和3年度は、収益的収支比率及び営業収支比率のいずれも100%を上回っており、健全な経営維持が図れたものと判断している。ただし、令和4年7月末でのFIT制度適用の満了以降の収益減を考慮すれば、現状での設備機器等の経年劣化による不具合に対しての修繕費用も対前年度比56.4%増と高みだしていることから、経営の維持、継続を図るためには、収益確保、経費削減に徹底して努めなければならないと考えている。

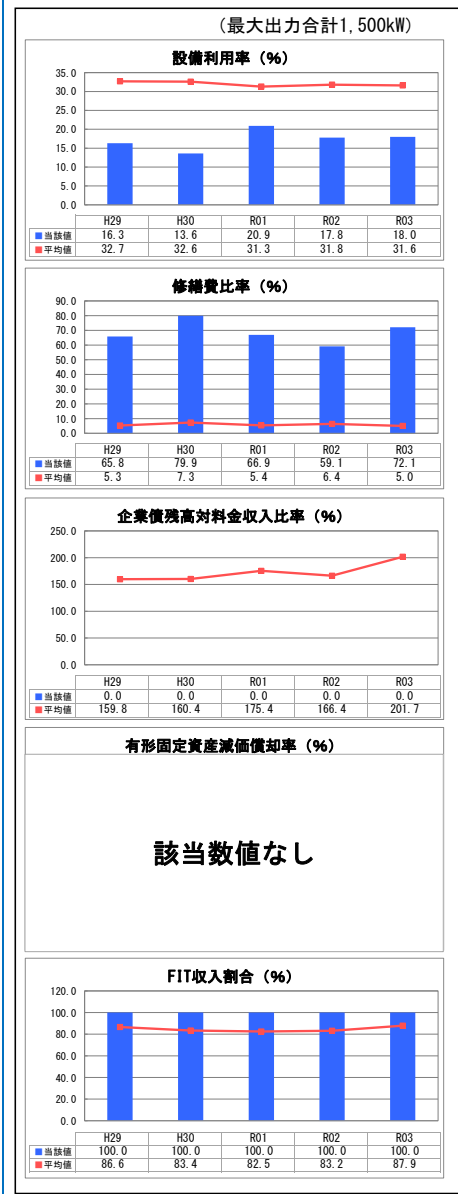
風力発電設備1基の売電収益が事業経営の全てであるので、重大な事故に繋がらないように、より効率的な設備、機器等の更新を図るなど、故障の低減に最善を努め、経営しなければならない。

1. 経営の状況

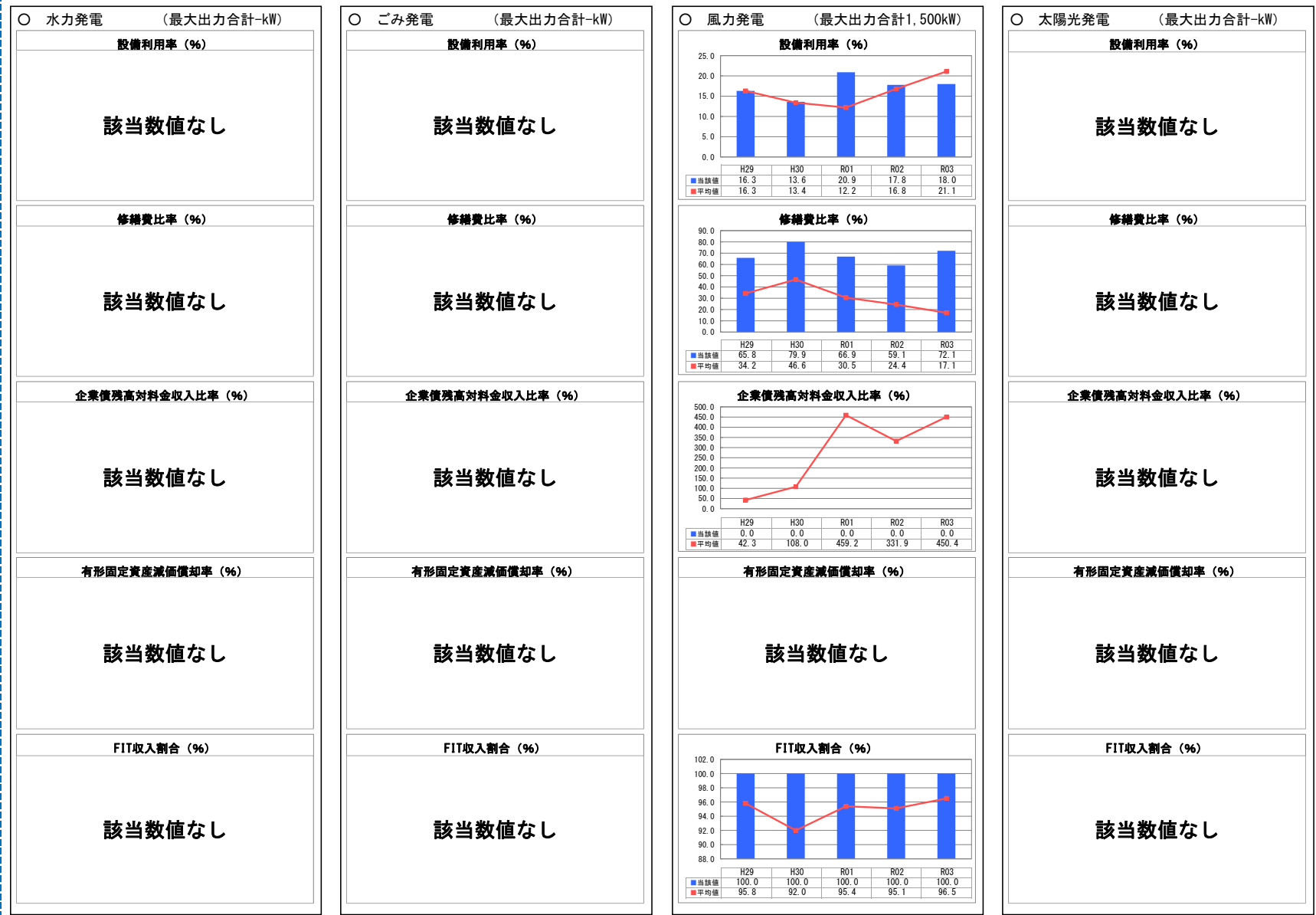


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

修繕費比率が72.1%と依然高いことから故障、修繕に係る経費の削減に最善を図り、経営を進める。

設備機器等の故障による稼働停止が長期に渡れば、発電設備1基での経営上の重大なリスクとなる。本年度は、落雷等の自然災害での故障要因に備え、遠隔操作システム更新や落雷監視システムの設置などを図っている。また、日常からの細やかなメンテナンスを進め、故障の低減に努めることでリスクの回避を図っていくこととしている。

全体総括

FIT制度適用下で、設備機器等の故障を最小に抑えて安定した設備利用が図れば、健全な経営が進められるものと考えますが、今後、FIT制度の適用満了の期日（令和4年7月31日）以降は、収益が大幅に減って経営が厳しくなり、余剰収益として積立てた基金積立金の運用を図っての経営が想定されることから、施設設備機器等の耐用年数を含め、経年劣化による故障等に係る修繕費用増大の見定め等、事業撤退の時期を判断しなければならないと考えている。

※ 平成29年度から令和3年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和3年度の団体数を基に平均値を算出しています。